

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	前田 千晴 (まえだ ちはる)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本心理学会第 87 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	前田千晴, 桂川泰典
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	ADHD マスキング評価項目の作成
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>注意欠如・多動症 (Attention Deficit Hyperactivity Disorder : ADHD) は、不注意、多動性、衝動性などの特性をもつ障害であり、学校場面や人間関係において困難な経験をする ADHD 者は非常に多い。またそのような困難な経験をした ADHD 者の多くが、社会的に望ましくないとされる ADHD 特性を隠そうと考えたり、実際に隠すための行動を取ることが明らかになっており、このような行動は ADHD マスキングと呼ばれている (Shaw, 2021)。ADHD マスキングに関する研究は国内外共に数が少ないが、「本邦における ADHD マスキングの実態に関する記述的検討」(Maeda, 2023) でのインタビュー調査では、ADHD マスキングは自己のタスクを円滑に行ったり、周囲との関係性を良好にしたりといったポジティブな効果をもたらす一方で、様々なことに気を配ることによる精神的疲労といったネガティブな効果ももたらしていることが明らかとなっている。また ADHD の症状を隠すことにより診断が遅れ、適切な支援を受けられるなくなる可能性も指摘されている (Dotterweich, 2021)。しかし ADHD マスキングの程度を測る測度は存在しないことから、実際に ADHD 者がどの程度 ADHD マスキングを行っており、それがどのような社会適応上の影響を及ぼしているのかについては明らかとなっていない。</p> <p>そこで本研究は、ADHD マスキングの評価項目を探索し、当事者パネルによる合意を得ることを目的とする。これにより、ADHD マスキング尺度を作成する際の基盤となる項目プールの作成が期待される。</p> <p>学会では本研究の成果について報告し、今後の研究の改善点などについて様々な専門家とディスカッションを行い、今後の研究活動における参考となった。</p> <p>抄録公開 URL : https://confit.atlas.jp/guide/event/jpa2023/proceedings/list?lang=ja (2023 年 9 月 16 日)</p>	

※無断転載禁止